

世界旅打ち気分

●第59回・オーストラリアのマニアック場2場

須田鷹雄



写真1) 建物の上にある看板が審議の行方を示す

今回はオーストラリアの競馬場から、「いまにして思えばなぜわざわざ行ったのか」というマイナー場を2場ご紹介しよう。性分というか、どこかの国を訪問しているときに「行ける競馬場があつたら行かないと気が済まないの、そういう競馬場にも訪問することになりがちなのである。

ひとつめは、クイーンズランド州のダルビー競馬場。州都ブリスベンから西に車で3時間ほど行ったところにある。日帰りの片道3時間はやってやれないことはないが、ダメージはかなり大きい。私が訪問したときも帰りに思いっきり居眠り運転をし、死にかけた。路肩のポールのようなものにぶつかる2秒前くらいに気付いたのだが、危険なことの上ない。海外旅打ちのロングドライブは同行者ありで行くか、余裕のある旅程を組む、休憩を取るといったことをおすめしたい。

さて問題のダルビー競馬場、ネット上で調べると正式にはブンヤパーク競馬場というようのだが、レーシングクイーンズランドのホームページでも開催日程などでダルビーと表記されている。この競馬

場、なにが良いかというと「なにもない」ところが良い。シンブルさを極めたような競馬場だ。

競馬場に着いてみると、まずしつかり区画された駐車場などはない。「その辺りに停める」ということになっている。入口では年代もの、おそらく軽く半世紀は経っているゲートが迎え、トークンを入れて回転バーを回すタイプのゲートだがおそらく壊れており、現在は横の窓口で現金払いするようになっている。

スタンドは2階建てだが「スタンド」と呼ぶほどのものではなく、プレハブを大型かつ頑強な2階建てにした感じ。屋根はあるが、壁はない。クイーンズランド州は一年を通じて温暖なため壁をはずしてても大丈夫なのだと思う。ちなみに同州の主要場であるサンシャインコースト競馬場も一般ファンが遊ぶエリアは屋根だけあつて壁はない。そのほうが風も通って過ごしやすかったりする。

競馬場での食べ物はハンバーガーしか選択肢がない。他にバーが一軒ある。オーストラリアの競馬場はどれだけ小さいところでもバーは確実にある。ビールは馬券と

同レベルの重要な存在である。

コースはお世辞にも整備されているとは言いがたく、芝コースだが芝が一面に生えそろうっているわけではない。外ラチ沿いはだいたい枯れて茶色くなっている。そして場所によっては「枯れてるゾーン」がコース真ん中くらいまで広がっている。オーストラリアでは騎手がレース前に馬場をインスペクション(調査)することが多いが、伸びるコース・伸びないコースがかなりありそうなので、必要に迫られているのだろう。

この競馬場は設備が時代がかつている点も見どころだ。マウンティングヤード(パドック)の奥には業務棟兼メンバースタンドが見えるが、その屋根に看板のようなものがついている。上から「ウェイト」「プロテスト」「デイスミスト」「アッパヘルド」と書かれており、それぞれ左側に緑・赤・黄・白の電球が付いている。日本語でいうと「後検量」「異議申し立て」「却下」「異議申し立て承認」のようなことで、なにもなければレース後いちはん上の緑ランプがついて確定する。騎手から意義申し立てがあると赤のプロテスト電球が点き、審議を



写真3) ナウラ競馬場のレース風景



写真2) 味があるダルビーの着順掲示板

<https://www.instagram.com/sudatakaashoten/>

経て黄色Ⅱ到達順位の通りか白色Ⅱ降着か失格、となるわけである。

着順掲示板も昔ながらのもので、数字の書かれた板を差し挟み掲げるタイプ。着差と走破タイムは手書きである。日本でいうと佐賀競馬場などの「パドックの馬名が黒板に手書き」に通ずるものがある、古き良きシステムだ。

ブックメーカーも古いタイプの台が多い。いまはデジタルサイネージの画面にオッズを写し、馬券はプリンタで印字されるブックメーカーが主流だが、ダルビーでは手回し式でオッズを変える台も残り、馬券は券紙に手書きというところもあった。古き良きブックメーカーを見ると、少しくらいオッズが悪くてもついそこで買ってみたくなるものである。クイーンズランドのカントリー競馬ではまだけっこう手書き券が残っているように思う。

今回もうひとつご紹介するのが、ニューサウスウェールズ州のナウラ競馬場。NOWRAと書くのだがナウラとノウラどちらが正しいのかさえ分からない。ちなみにこちら競馬場の正式名称は地名と別

にあつて、アーチャー競馬場というらしい。場所はシドニーから車で南に2.5時間ほど行ったところである。こちらでもなかなかしんどいドライブだが、途中イラワラ湖という汽水湖の横を通つたりと、景色に見どころはある。東の海岸に近いところを進むので、シドニーを朝早くに出てどこかに寄り道するのもいいかもしれない。

こちらの競馬場もスタンドはシンブルというか、そもそも1階が検量室など業務エリア、2階がメンバー用観戦室という建物ひとつしかない。

非メンバーはどうするのかというところ「地べた」しかない。ただ、屋根で覆われているゾーンはあり、そこにベンチもある。マウンティングヤードのすぐ近くに、テント＋テーパー＋椅子が何セットか用意されているところもある。

この「テント＋テーパー＋椅子」が無料で用意されているというのはオーストラリアでは一般的なのだが、ヒラ開催では空いていることが多い。日本の競馬ファンなら朝イチで陣取つてそのまま占拠しそうなものだが、オーストラリアの競馬ファンはだいたいぶのんびりしてい

る。

ナウラの競馬場はダルビーに比べると若干ちゃんとしている面はあり、飲食もハンバーガー一択ではない。写真に撮っておいたメニューを確認したところ、「卵とベーコンのロールパン」「BLTサンド」「ハンバーガー」「シニョツツェル(薄いチキンカツ)のようなもの」「バーガー」「ホットドッグ」「ハム・チーズ・トマトのホットサンド」などがある。

「全部パンと肉じゃねえか」という指摘はごもっともだが、フィッシュアンドチップスもある。ポテトだけでなく野菜も添えられていて悪くないものだった。いまはこの競馬場に行ってもメニューがハンバーガー一辺倒なので、それ以外の選択肢があるだけでもありがたい。ちなみにお値段は1800円。ソフトドリンクを付けたら2000円を楽に超える。円安も困ったものである。

肝心の競馬についてはナウラは特に特徴はないが、観客が少ないぶん自分が競馬を独占しているような気分で見ることができ。ラチ沿いで写真を撮るような人も、この手の競馬場には合うのではないだろうか。